

事前に知っておく事ってほんと大切ですね。僕も「知らない場所」と「知ってる場所」では気持ち的に全然違います。例えば講演会なんかでも、知ってる場所だと講演の事だけに集中できます。でも知らない場所だと、いらん気を使ってしまって倍疲れます……。なのでなるべく事前に打ち合わせを入れて場所の確認などをします。その時に「ええ～？場所見ないとあきませんかあ～？」なんて事言われたら、やる気半減、悲しくなりますよね。あとはそれを「全体で取り組む事」これほんと大切ですね。すべての支援において、これは言える事だと思いますね。逆に「全体では無理やから無理」なんて事で諦めちゃったらダメですよ～（＾＾） 久田

第 55 回『わかるように伝えていきますか』

香川大学 坂井 聡

不安を取り除くため方法

不安を取り除くための具体的な方法を考えるためには、何に不安を感じているのかを児童生徒本人から聞き取ることから始める必要があるでしょう。支援する側が想像もしないところに不安を感じていることがあるからです。不安を感じていることが分かったら、それに対して解決する手立てを本人や保護者と相談しながら具体的に考えていくことになります。本人が納得する支援が重要だからです。例えば、「入学するのだが、教室の場所がどうなっているのか、入学式の手順がどうなのかが分からない」というようなことに不安を感じている場合を考えてみることにしましょう。このようなときは、事前に学校見学の機会を設け、入学式会場を見たり、新しい教室なども見てもらったりしておくという方法が提案できるのではないのでしょうか。できれば新しく担任になる先生も紹介しておけばいいのではないかと思います。入学前からそのようなことはできないと考える人もいるでしょう。しかし、そこに不安で困っている児童や生徒がいるのです。不安を感じ困っている子どもに合わせるための最大限の配慮をすることは、教育において決してマイナスに作用することはないと思います。むしろ、教育的配慮しないことのほうがマイナスになるのではないのでしょうか。見学が無理な場合は、デジタルカメラや携帯電話等で撮った入学式会場の写真を送ったり、式次第を事前に送ったりすることで対応することも可能だと思います。また、前年度の入学式の写真を送っておくという方法も考えられるのではないのでしょうか。

転校で学校が変わる場合も同様でしょう。事前に家から実際に通学路を使って学校まで行き、学校内を見学し、新学期から過ごす教室を見せたり、新しく担任になる先生の情報を知らせておいたりすることが、不安を取り除くうえで重要な教育的配慮となるのです。通学路についてはインターネットの地図などの活用も考えられるでしょう。いずれにしても、入学式や転校時の始業式等のスタートでつまづかないようにしておくことは、どの児童生徒にとっても重要なことなのではないかと考えられるのです。ここでつまづいてしまうと、学校に行けなくなってしまう子どももいるかもしれないからです。そのようなことにならないように、保護者とも協力して安心して新しい環境を迎えることができるような工夫が求められるのではないのでしょうか。

進学や転校ではなく、進級という形で新しい環境を迎える児童生徒もいることでしょう。進級の場合は、進学よりも不安は少ないだろうと思われます。しかし、それでも新しい環境に対する不安は大きいものです。

終業式の前に、自分のロッカー内の荷物や机やいすを新しい教室に移動させ、これまで使用していた教室をきれいに掃除するという方法も、不安を取り除き環境が変わることを意識づけるうえで効果的な方法ではないのでしょうか。新しい教室に持ち物を移動させることで、新しい環境に見通しを持つことができるようにすると同時に、教室掃除と終業式をすることで、終わりを伝えることができるからです。終わりの儀式をすることで、「終了」したことを意識してもらうようにするのです。

ここで述べてきたものは、教育的配慮のほんの一部でしかありません。アイデア次第で様々な支援を行うことができると考えられます。ここで強調しておきたいのは、これらの支援は、学校全体で取り組むべきことだということです。特別支援教育を担当する教員だけが支援する問題ではないということも強く強調しておきたいと思います。

このように、指導や支援する側からの必要な教育的配慮や支援があるのです。しかし、それだけでは不十分です。高機能自閉症やアスペルガー症候群のある児童生徒が、自分で不安を取り除くことができるように、そのためのスキルを身に付けておくことも重要だと考えられるからです。

「困ったときの尋ね方を知っている」、「不安であることを伝え、不安を取り除くための情報を得る方法を知っている」等が考えられます。

そのためには、日ごろの学校生活を通して、必要な支援を依頼する練習をしておくことが重要でしょう。その際、支援を依頼された側は、「自分で調べなさい」とか「どうしたらいいか自分で考えなさい」といった対応をするのではなく、具体的な解決策も含めて丁寧に指導していく必要があります。「あなたの場合は、その不安を解決するために、これから言うことをメモして、次の機会にこのメモを参考にすればいい」というようなことを具体的に教えていくのです。そのためには、周囲に関わる人たちが、指導方法を共通理解しておく必要があるでしょう。このような指導を継続していくことによって、自分で不安を取り除くスキルを身に付けることができれば、生活しやすくなるに違いないのです。

坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞 (著書)

暮らしの中のコミュニケーション (やまびこの里) クラスルームコミュニケーション (こころリース出版会) 自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア (エンバワメント研究所) など